

クニマスの保全及び養殖技術に関する研究（クニマス資源の動向）

とりまとめ: 青柳敏裕

2010年に西湖で再発見されたクニマスの保護と活用を図るため、クニマスの保全及び養殖技術に関する研究を実施した。本研究は山梨県総合理工学研究機構の課題研究である。ここではクニマス保全の基礎知見となる資源動向に関する調査結果を示す。なお、本研究に関するその他の成果については、別途試験研究の項で個別に報告する。

結果の概要

2019年秋の試験採集ではクニマスの採集比率が1.1%、CPUE（1人1時間当たりの平均釣果）が0.04尾/人・時間と、ともに過去最低の水準を示した（図1）。クニマスの採集比率の大幅な低下を受け、2019年秋のヒメマス・クニマス混合資源量から推定したクニマス資源尾数（1歳以上）は730尾（寿命6歳の場合）と激減した（図2）。試験採集時のクニマス採集比率が生息実態を反映していない可能性もあるが、資源水準が1,000尾を下回る危険な状況である可能性が懸念された。これまでヨーロッパウナギによるクニマス卵の食害が確認されているため、卵食害への対策強化が必要と考えられた。また、未成熟期の生態が類似したヒメマスのCPUEは良好（図1）で、両種の生息環境面でクニマスの減少要因と疑われる因子は見つかっていないが、卵の食害以外に疑われる原因がないか調査が必要と考えられた。

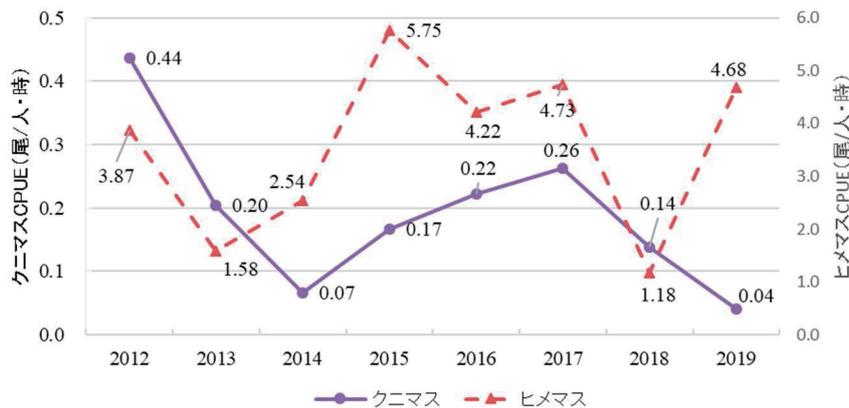


図1 秋の試験採集時の CPUE（1人1時間当たりの平均釣果）

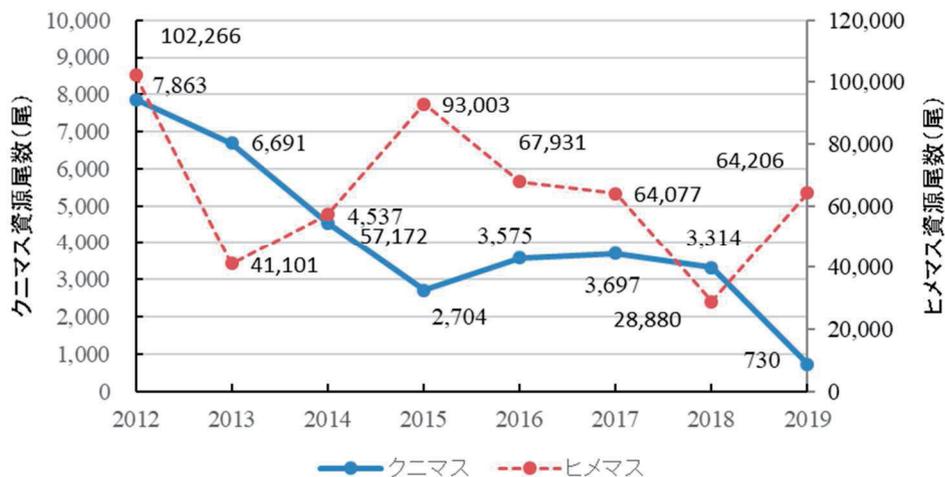


図2 クニマス及びヒメマスの資源推定結果（2012-2019年、寿命6歳とした場合）